

## 第1回 生活の質に関する調査結果（検討用資料）概要<sup>1</sup>

平成24年4月27日  
内閣府経済社会総合研究所  
幸福度研究ユニット

### 1. 調査の概要

調査対象：全国の15歳以上の者10,440人（被災地1,000人、被災地以外9,440人）

調査時期：平成24年3月1日から16日。

調査方法：調査員が調査票を配布、回収する訪問留置法。

調査実施機関：社団法人新情報センター。

回収率：61.8%。

調査項目：現在の主観的幸福感等。幸福度指標試案にある132指標中、37指標をカバー。

### 2. 調査結果の概要

#### ①現在の幸福感

0点を「とても不幸せ」、10点を「とても幸せ」とする0点から10点のスケールで現在の幸福感を聞いたところ、平均で6.6であった。平成23年3月、同22年3月に実施された国民生活選好度調査における同じ問の平均6.5と比較し、ほぼ同様の結果となっている（表1）。

表1 他の調査との現在の幸福感の比較

調査（調査時点）	現在の幸福感の平均値
今回（平成24年3月）	6.6
国民生活選好度調査（平成23年3月）	6.5
国民生活選好度調査（平成22年3月）	6.5

分布をみると、5と8の二つにピークがあり、これまでの我が国の幸福感に関する調査結果と同様の結果となっている。男女別には男性が6.3、女性が6.9と女性の方が高い。

<sup>1</sup>本文からの抜書きを中心に作成したものであり、図表番号等は本文のものをそのまま利用している。

○年齢別の幸福感で20代が落ち込んでいるのは有配偶率の影響と考えられる

図2 年齢別の現在の幸福感

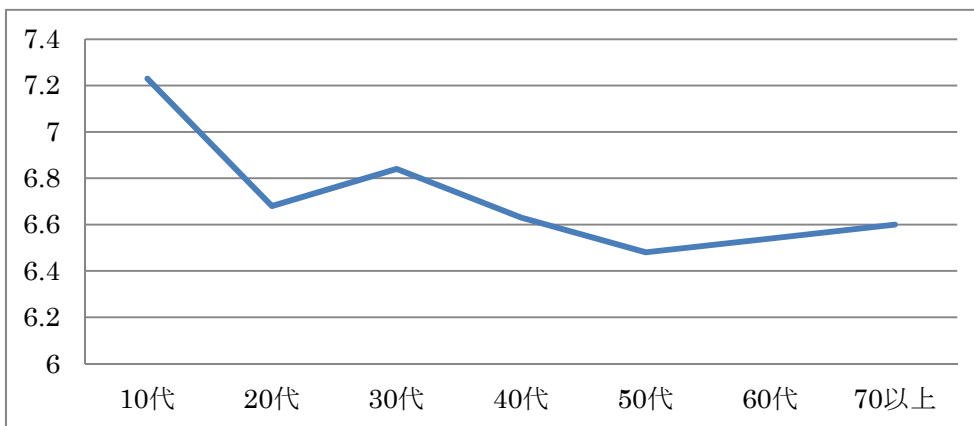


図3 配偶者の有無別の現在の幸福感

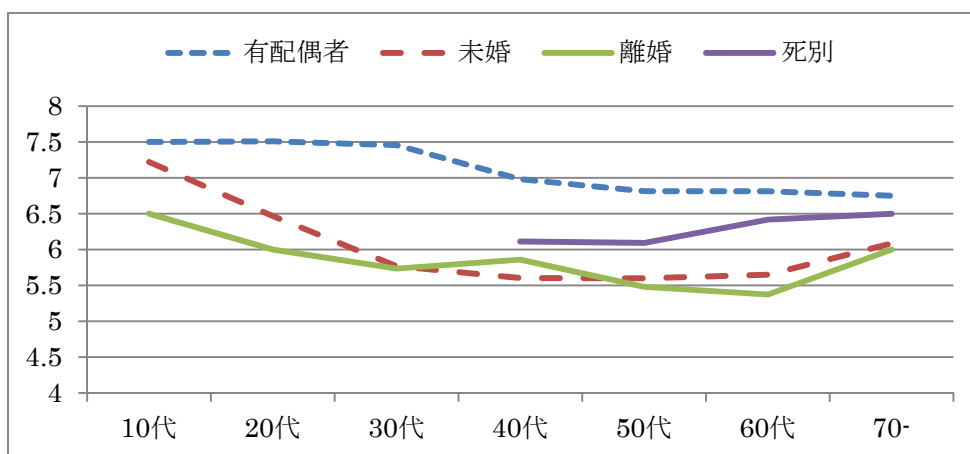
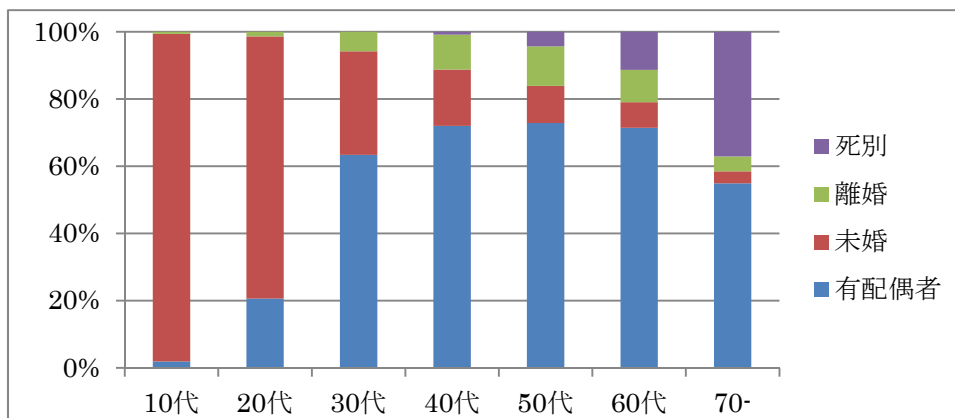


図4 年齢別の有配偶者の比率



○就業状態別には、仕事をしていて人の中では、会社などの役員の幸福感が最も高く、臨時・日雇いと回答した人の幸福感が最も低い。仕事をしていなかった人の中では、仕事を休んでいた人が7.3と最も高く、次に、通学（学生）が7.2、そして家事（主婦・主夫）が高い。仕事を探していた人（失業者）の主観的幸福感は5.2と非常に低い（表3）。結果を解釈する際には、就業状態により、年齢や収入に大きな違いがあることに注意が必要である。

表3 就業状態別の現在の幸福感、年齢、年収（指数）

表3-1 仕事をしていて人

	現在の幸福感	年齢	世帯収入 (指数)	本人収入 (指数)	回答者数
常用雇用	6.6	44.5	4.4	3.3	2588
臨時・日雇	6.2	48.4	3.4	1.8	356
会社などの役員	7.2	52.8	5.2	4.5	234
自営業主	6.5	58.9	3.9	3.0	419
自営業の手伝い	6.7	55.7	4.0	1.6	238
内職	6.7	61.9	3.1	1.4	67
全体	6.6	47.9	4.3	3.1	3902

（回答者数は現在の幸福感に回答した人の数である。以下の表3-2も同じ）

表3-2 仕事をしていなかった人

	現在の幸福感	年齢	世帯収入 (指数)	本人収入 (指数)	回答者数
仕事を休んでいた	7.3	48.6	3.8	2.4	55
仕事を探していた	5.2	44.8	2.7	0.8	126
通学	7.2	17.7	4.6	0.1	290
家事	7.1	58.8	3.7	0.9	691
職業生活引退（高齢者など）	6.5	73.4	3.1	2.3	1010
その他	6.2	59.1	3.0	1.5	253
全体	6.7	59.0	3.4	1.5	2425

\*本調査では、回答者の収入は範囲で質問しているため、収入への回答を比較のため、世帯収入指数、本人収入指数として指数化している。これらの指数は、年収が「全くない」を0、「1万円以上100万円未満」を1、「100万円以上200万円未満」を2、「200万円以上300万円未満」を3、「300万円以上500万円未満」を4、「500万円以上700万円未満」を5、「700万円以上1000万円未満」を6、「1000万円以上」を7として計算した指数である。

## ②家族の幸福感

自分から見た他の同居家族の現在の幸福感を聞いたところ、6.8 と、本人の幸福感よりやや高い点になった（表 4-1）。但し、家族の幸福感と本人の幸福感を両方回答した人について、幸福感の差を調べると、非常に小さく、平均値に統計的な有意な差はない（表 4-2）。全体の平均値がやや高く出たのは、「同居家族がいない」、「無回答」の割合が影響したためである。

表 4 男女別の家族の幸福感

表 4-1 家族の現在の幸福感

	平均	標準偏差	回答者数
男性	6.5	2.0	2556
女性	7.0	1.9	2781
全体	6.8	2.0	5337

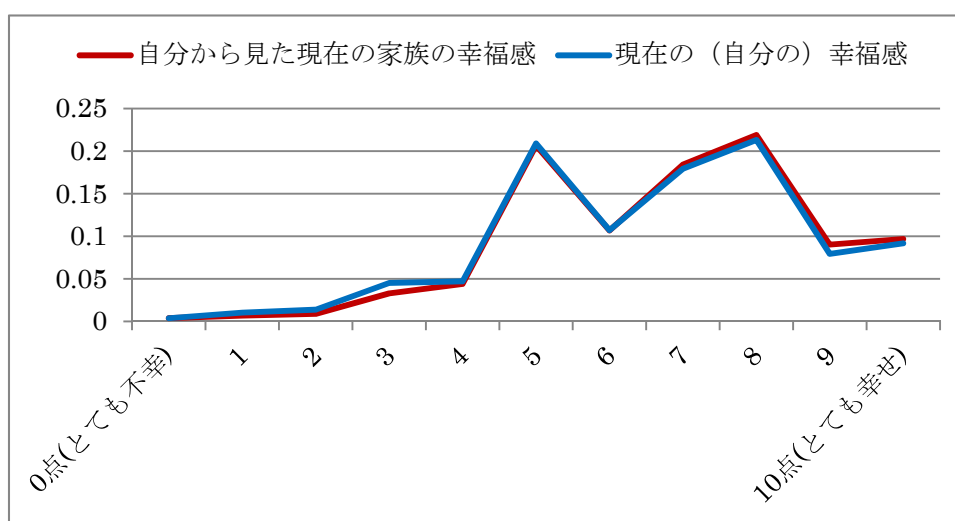
表 4-2 家族の幸福感と自分の幸福感の差

1	平均	標準偏差	回答者数
男性	0.04	1.28	2554
女性	-0.01	1.21	2778
全体	0.01	1.24	5332

（注：家族の幸福感から自分の幸福感を引いた値。

非常に差が小さいので本表のみ小数点第 2 位まで表示）

図 5 家族の幸福感と自分の現在の幸福感の分布



（注：ここでは同居家族がいない、無回答を除いた分布データを用いている）

### ③理想の幸福感

0点を不幸せだけを感じている状態、5点を幸せと不幸せが半々、10点を幸せだけを感じている状態として理想的な状態を聞いたところ、平均点は7.2と現在の幸福感より0.6点高い結果となった（表5、図6）。男女両方とも理想の方が高い。年齢別には、理想は30代にピークを迎える逆U字方となっている。理想と現実とは10代ではほぼ一致しているが、その差は次第に開き始め、40代、50代で最大となる。その後、理想の低下と現在の上昇により縮小する（図7）。

表5 理想の幸福感と現在の幸福感 平均点

	理想	現在	差
男性	7.0	6.3	0.7
女性	7.5	6.9	0.5
全体	7.2	6.6	0.6

図6 理想の幸福感と現在の幸福感の分布

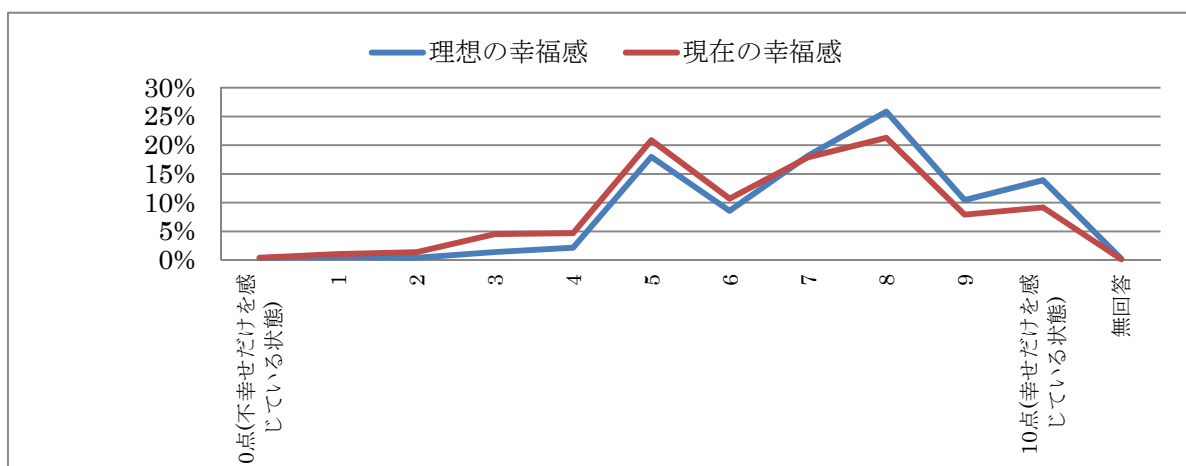
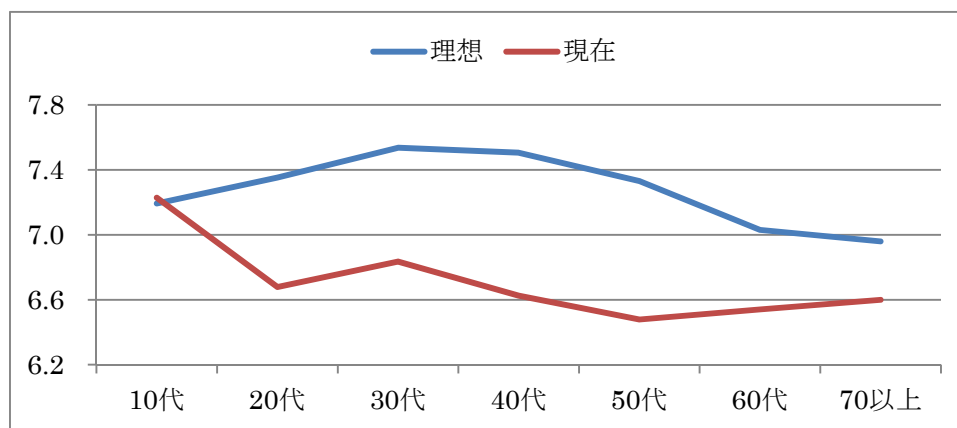


図7 理想と現在の幸福感の年齢別推移



#### ④将来の幸福感

5年後の幸福感を現在と同じ場合に0点とし、今より幸せの場合最大プラス5点、今より不幸せの場合最小マイナス5点で聞いたところ、平均点は0.4となった。男女別にもほとんど変わらない(表6)。多くの人が0と回答しており、幸福感は現在とあまり変わらないと考えている(図8)。年齢別には、10代、20代、30代が1点以上のプラスを回答し、年齢に応じて低下し、60代以降はマイナスを予想している(図9)。

表6 5年後の幸福感(現在と比較して)平均点

男性	0.3
女性	0.5
全体	0.4

図8 5年後幸福感の方向性の回答者の分布

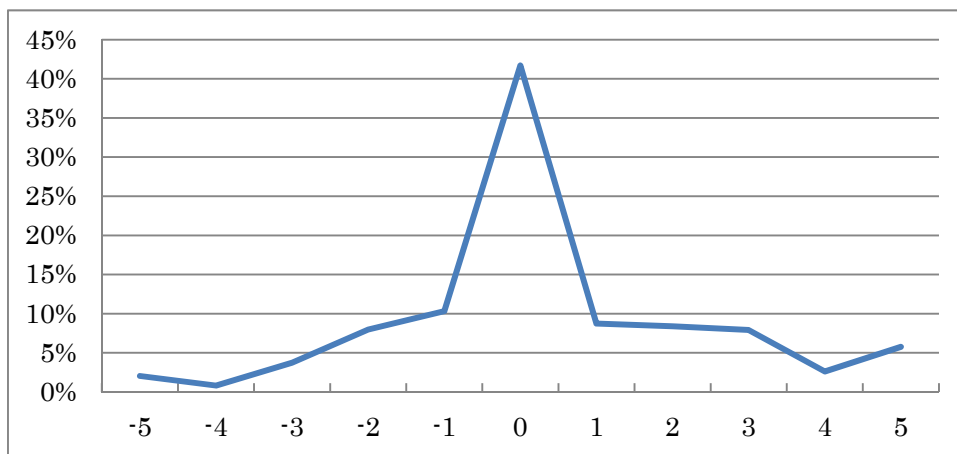
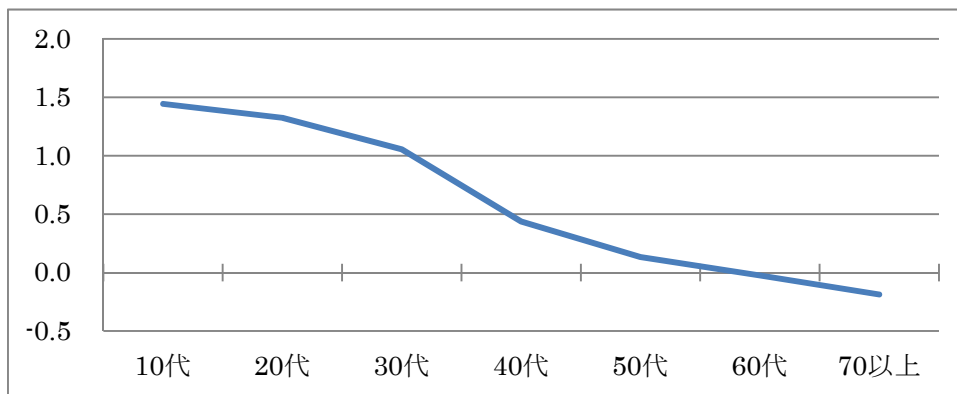


図9 年齢別の将来の幸福感(縦軸は上昇幅)



(2) 様々な主観的指標

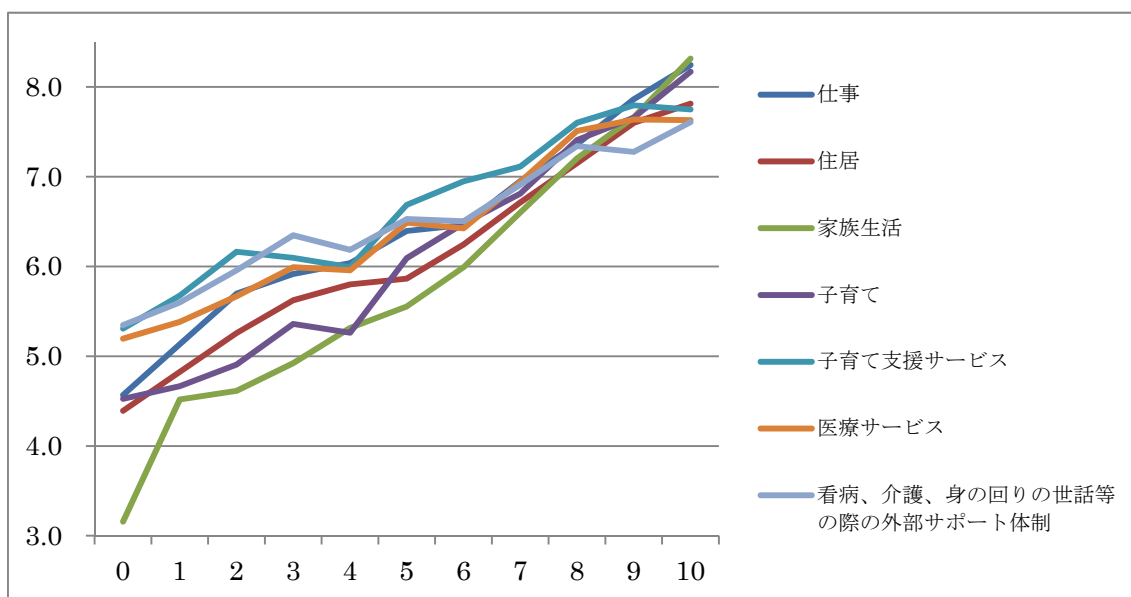
⑧生活の局面別満足度

各生活の局面における満足度を0点から10点のスケールで聞いたところ、相対的には家族生活で満足度が高い一方、介護等のサポート体制や子育て支援サービスへの満足度が低いという結果となった(表12)。局面別の満足度のポイント別に、現在の幸福感の平均点を見ると、満足度が上昇するにつれ、幸福感が改善する様子がうかがえ、密接な関係の存在が示唆される(図14)。特に、家族生活の満足度が低い回答者の現在の幸福感の平均点は低い。

表12 生活の局面別の満足度

	男性			女性			全体		
	平均	標準偏差	回答者数	平均	標準偏差	回答者数	平均	標準偏差	回答者数
仕事	5.3	2.7	2486	6.0	2.6	2402	5.6	2.7	4888
住居	6.5	2.6	3008	6.9	2.6	3372	6.7	2.6	6380
家族生活	6.9	2.4	2748	7.2	2.4	3058	7.0	2.4	5806
子育て	6.3	2.6	1678	6.7	2.4	1668	6.5	2.5	3346
子育て支援サービス	4.9	2.3	1515	5.3	2.3	1431	5.1	2.3	2946
医療サービス	5.5	2.3	2605	5.7	2.4	2845	5.6	2.4	5450
看病、介護、身の回りの世話等の際の外部サポート体制	4.9	2.2	1842	5.1	2.4	1852	5.0	2.3	3694

図14 局面別の満足度(横軸)と現在の幸福感の関係



⑨生活費のやりくりの困難さ

家族全体の世帯収入で必要不可欠な生活費をやりくりすることは毎月どの程度、容易または困難か聞いたところ、「非常に困難」、「どちらかという困難」と回答した人が 34.8% となり、「非常に容易」、「どちらかという容易」と回答した人の割合 26.6%を上回った（表 13）。

生活費のやりくりの容易さ・困難さ別の現在の幸福感を見ると、容易になるにつれ幸福感が改善している（図 15）。世帯年収と現在の幸福感の関係（図 16）と比較し、より明確な関係となっている。

表 13 生活費のやりくりの評価

	回答者数	構成比(%)
総数	6451	100.0
非常に困難	532	8.2
どちらかという困難	1714	26.6
どちらでもない	2440	37.8
どちらかという容易	1408	21.8
非常に容易	306	4.7
無回答	51	0.8
困難（計）	2246	34.8
容易（計）	1714	26.6

図 15 生活費のやりくりの容易さ・困難さと現在の幸福感

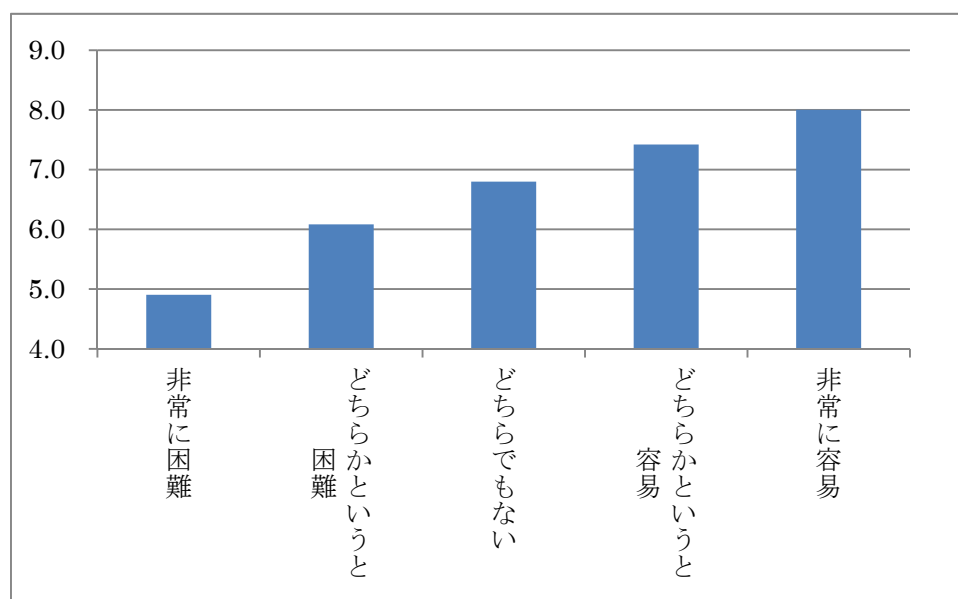
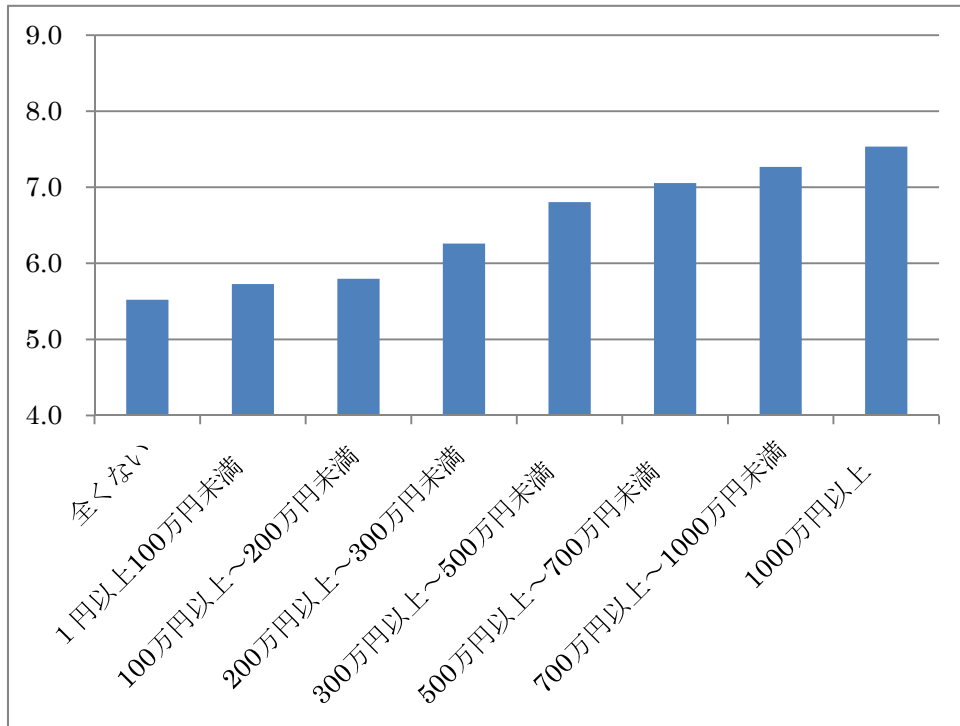




図 16 世帯年収と現在の幸福感



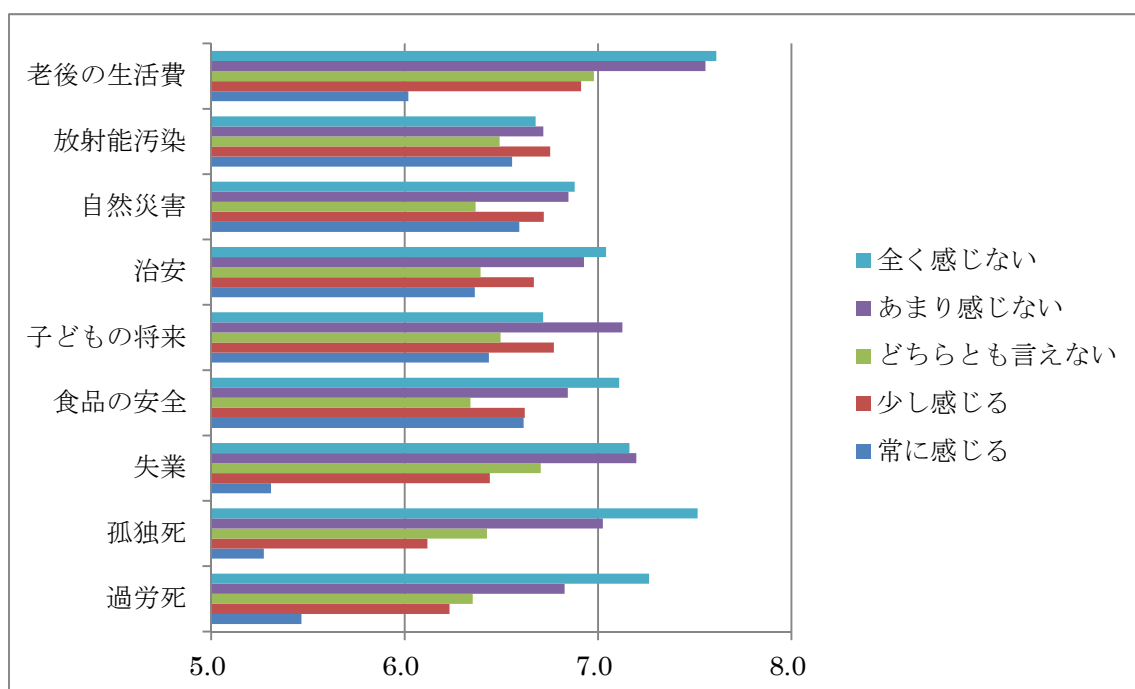
⑫不安

不安を引き起こすと思われる出来事に対して、どの程度不安を感じるか聞いたところ、「感じる」とする回答が最も多かったのは「老後の生活費」であった。次いで「自然災害」、「放射能汚染」、「子どもの将来」であった(表 16)。不安の程度別に現在の幸福感を見ると、「孤独死」、「失業」、「過労死」において、不安を「常を感じる」と回答した人の幸福感が低いことが分かる(図 19)。

表 16 各項目について不安を感じる程度 (%)

	常を感じる	少し感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	全く感じない	無回答	感じる	感じない
過労死	5.3	18.1	23.3	27.9	24.6	0.8	23.4	52.6
孤独死	9.1	21.7	22.0	25.3	21.7	0.4	30.8	46.9
失業	14.0	20.6	21.8	17.2	24.1	2.3	34.7	41.2
食品の安全	15.1	31.9	23.5	20.7	8.2	0.6	47.0	28.9
子どもの将来	23.7	28.9	23.0	9.8	12.2	2.4	52.6	22.0
治安	9.9	30.3	28.8	21.7	8.6	0.8	40.2	30.3
自然災害	31.8	37.1	15.9	10.6	4.0	0.5	68.9	14.6
放射能汚染	22.0	31.3	19.8	15.1	11.2	0.6	53.3	26.4
老後の生活費	41.2	31.1	13.9	8.7	4.7	0.4	72.3	13.4

図 19 不安の程度と現在の幸福感



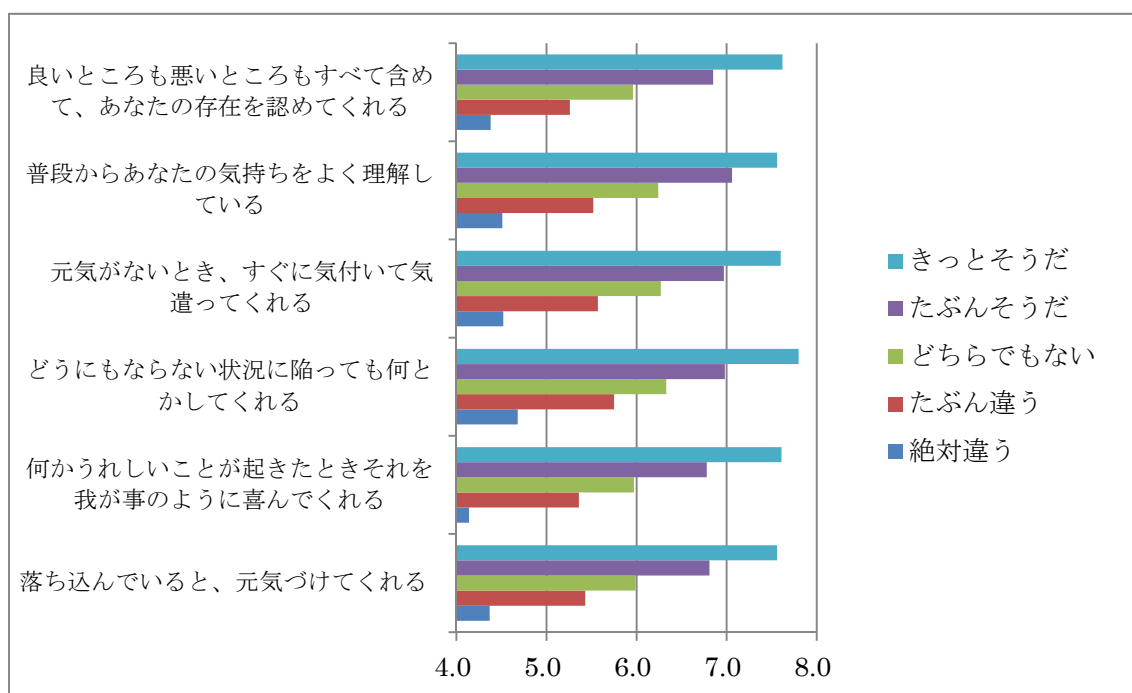
⑭身の周りの人から受ける援助への期待

「落ち込んでいると、元気づけてくれる」、「何かうれしいことが起きたとき、それを我が事のように喜んでくれる」など、生活の様々な場面で身近な人がどの程度援助してくれるか、期待の程度を聞いたところ、多くの場面で過半数以上の人から援助を受けることを期待している（表 18）。援助の期待度別に、現在の幸福感を見ると、援助への期待が高いと現在の幸福感が高いことが分かる（図 21）。

表 18 場面ごとに身の周りから受ける援助への期待 (%)

	絶対 違う	たぶん 違う	どちら でもない	たぶん そうだ	きっと そうだ	無回答	違う	そうだ
落ち込んでいると、元気づけてくれる	2.0	5.0	26.8	43.2	22.6	0.4	7.0	65.8
何かうれしいことが起きたとき、それを我が事のように喜んでくれる	1.8	4.9	25.5	44.4	22.8	0.4	6.8	67.3
どうにもならない状況に陥っても何とかしてくれる	3.6	10.6	35.4	36.9	12.9	0.6	14.2	49.8
元気がないとき、すぐに気付いて気遣ってくれる	3.2	8.4	32.6	39.3	16.0	0.5	11.6	55.3
普段からあなたの気持ちをよく理解している	3.1	8.9	33.5	39.0	15.1	0.5	12.0	54.0
良いところも悪いところもすべて含めて、あなたの存在を認めてくれる	2.1	5.8	26.3	43.2	22.2	0.4	7.9	65.4

図 21 場面ごとに身の周りから受ける援助への期待と現在の幸福感



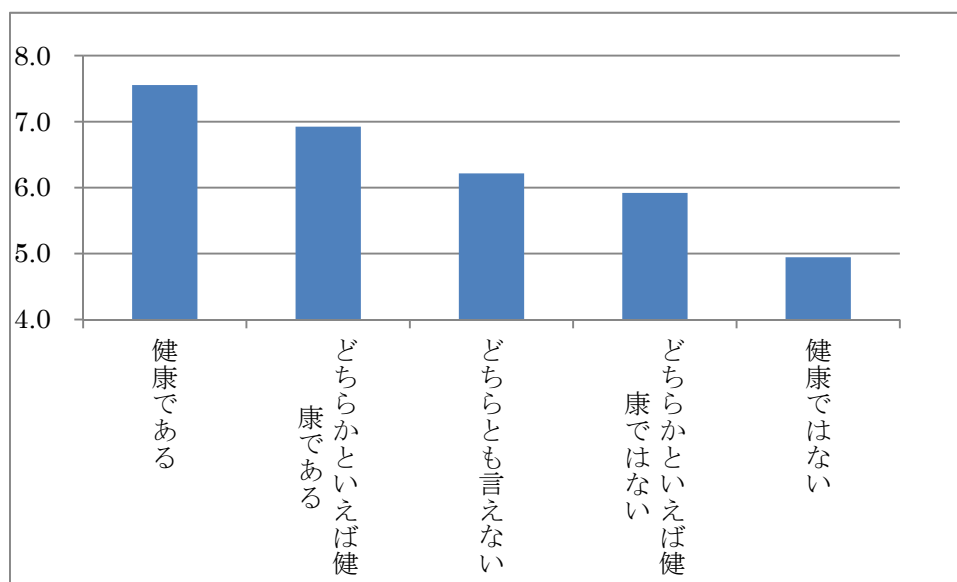
⑮自己申告の健康状態

自分自身の健康状態について聞いたところ、健康であるとする回答が6割程度となった(表19)。健康状態の評価別に現在の幸福感を見ると、健康状態の評価が低下するにつれ、現在の幸福感が下がっている(図22)。

表19 自己申告の健康状態

	回答者数	構成比(%)
総数	6451	100.0
健康である	1223	19.0
どちらかといえば健康である	2638	40.9
どちらとも言えない	1220	18.9
どちらかといえば健康ではない	990	15.3
健康ではない	372	5.8
無回答	8	0.1
健康	3861	59.9
健康ではない	1362	21.1

図22 健康状態別の現在の幸福感



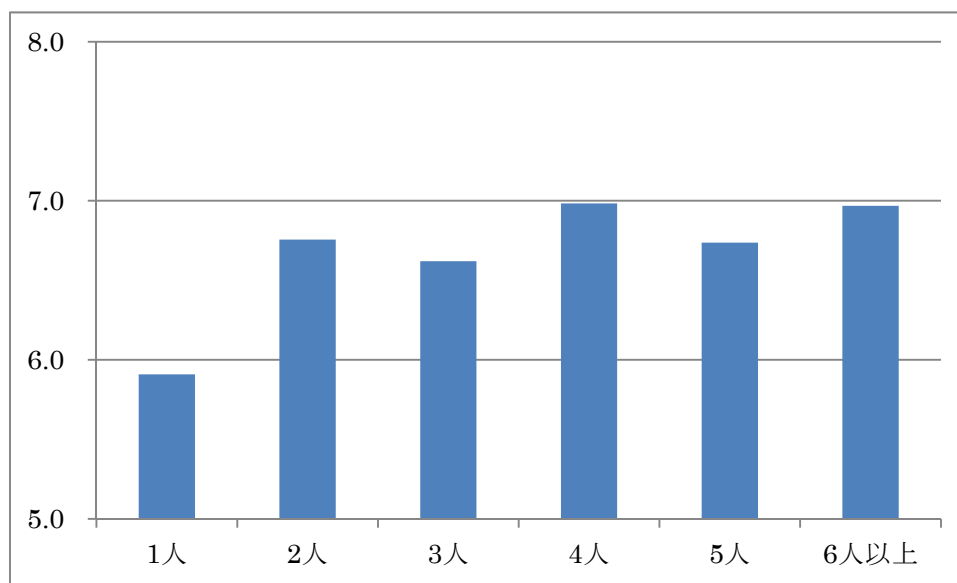
⑰世帯人数

世帯人数について聞いたところ、平均で3.1人となった。2010年の国勢調査の2.4人と比較するとやや多い。構成比をみると、二人世帯が最も多い(表21)。世帯人数別の現在の幸福感を見ると、単身世帯が幸福感が低いことを除くと、関係は、明確ではない(図24)。

表21 世帯人数

	回答者数	構成比(%)
総数	6451	100.0
1人	1085	16.8
2人	1590	24.6
3人	1302	20.2
4人	1277	19.8
5人	620	9.6
6人以上	505	7.8
無回答	72	1.1

図24 世帯人数別の現在の幸福感



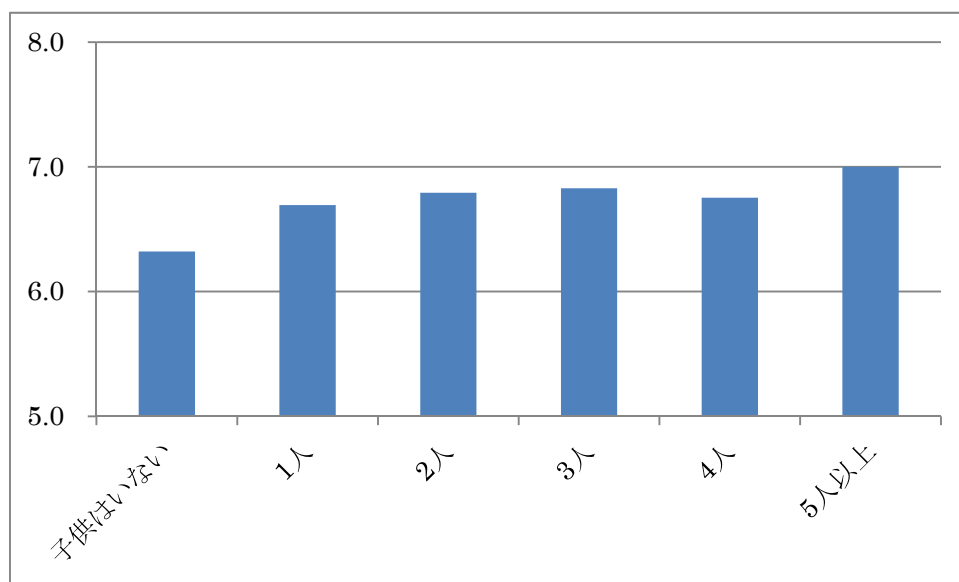
⑱子どもの数

子供の数を聞いたところ、本調査において子どもがいると回答した人の割合は7割であった(表22)。子どもの数別に現在の幸福を見たところ、「子どもがいない」と回答した人の幸福感がもっとも低く、人数が増えるにつれ、やや増加している(図26)。

表22 回答者の子どもの数

	回答者数	構成比(%)
総数	6451	100.0
1人	902	14.0
2人	2442	37.9
3人	986	15.3
4人	127	2.0
5人以上	49	0.8
子供はいない	1881	29.2
無回答	64	1.0
子どもがいる	4506	69.8

図25 子どもの数別の現在の幸福感



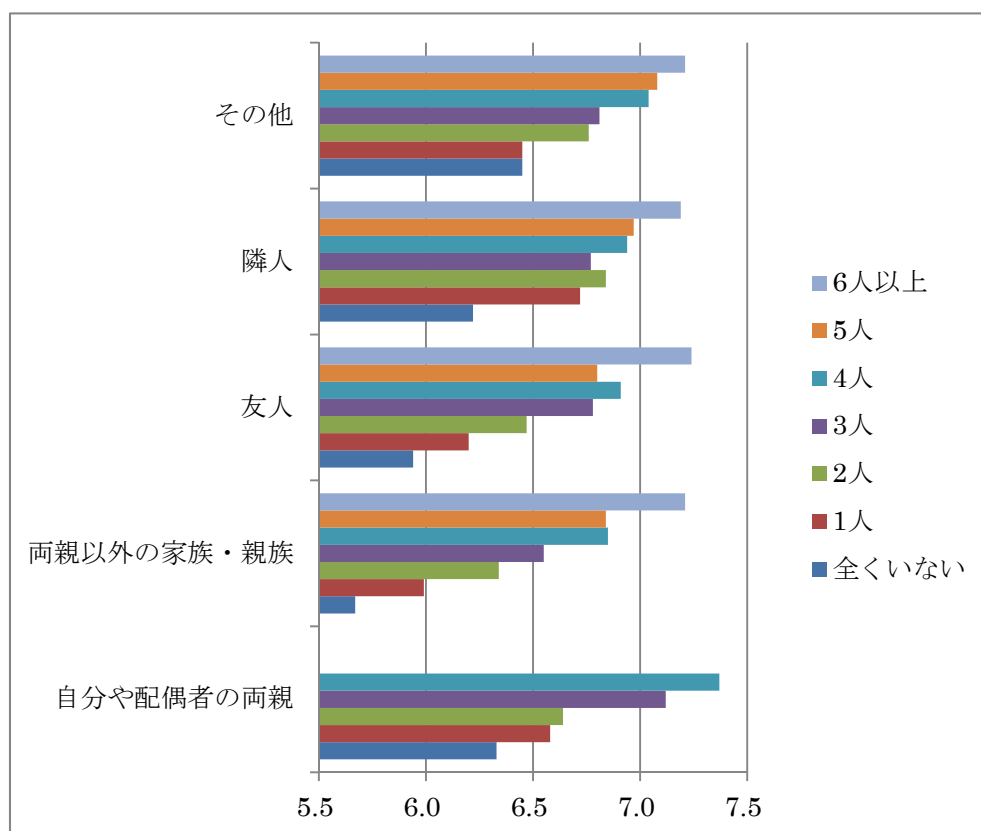
②① 困難時に助けてくれる人の数

病気や災難にあった際に助けてくれる家族・親類、友人、隣人の数を聞いたところ、その他を除くとほとんどのカテゴリーで、複数の人が助けてくれるとする回答者が多い（表 25）。但し、隣人に病気や災難の際に助けてくれる人が全くいないと回答した人が3割以上いた。助けてくれる人の数別に、現在の幸福感を見ると、明確な相関関係が見られる（図 27）。

表 25 困難な時に助けてくれる人の数 (%)

	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	全くいない	無回答
あなた・配偶者の両親	15.4	23.4	9.0	10.7			37.9	3.6
両親以外の家族・親類	7.1	17.5	14.1	11.7	7.8	30.3	9.6	1.9
友人	8.8	16.6	16.4	6.8	6.9	24.1	17.5	2.9
隣人	8.9	17.4	11.4	5.9	4.0	13.2	36.0	3.2
その他	5.3	6.7	5.7	2.2	2.0	12.8	55.2	10.1

図 27 助けてくれる人の数別の現在の幸福感



(3) 被災地、被災地以外の集計

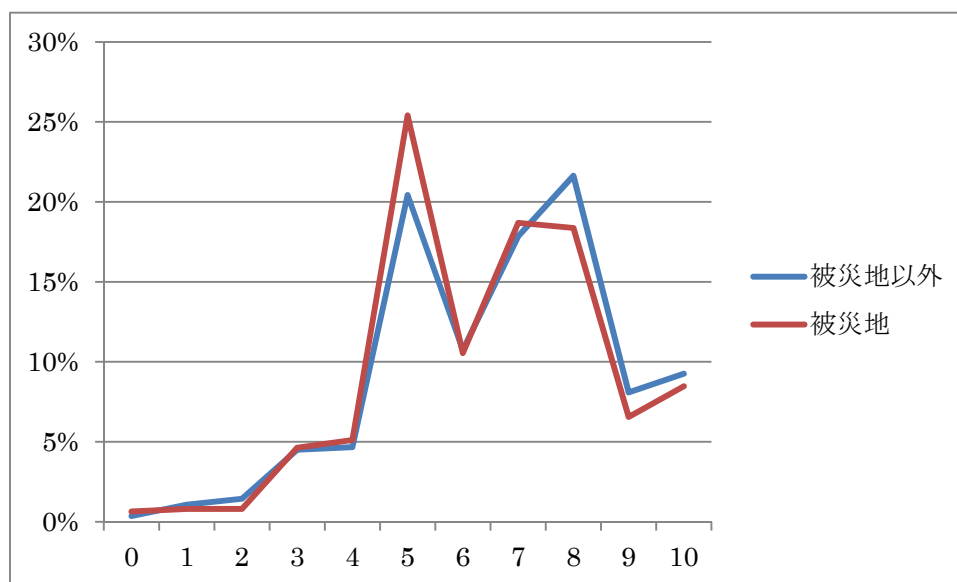
②⑥現在の幸福感

被災地と被災地以外で、現在の幸福感について比較したところ、被災地は幸福度の高い層が少なく、やや低い層が多く、平均値もやや低いという結果となった(表30)(図32)。

表30 被災地と被災地以外の現在の幸福感

	平均	標準偏差	回答者数
被災地以外	6.7	2.1	5816
被災地	6.5	2.0	626
全体	6.6	2.1	6442

図32 被災地と被災地以外の現在の幸福感の分布



②⑦ 不安感

不安を引き起こす項目について、不安の程度を被災地と被災地以外で集計すると、過労死、孤独死、失業、治安などの項目では、大きな違いはないものの(図33-1)、自然災害、放射能、食品安全、子どもの将来、老後の生活費の項目で、被災地における不安感が被災地以外より強いことが分かる(図33-2)。



図 33-1 被災地と被災地以外における不安感の違い（過労死、孤独死、失業、治安）

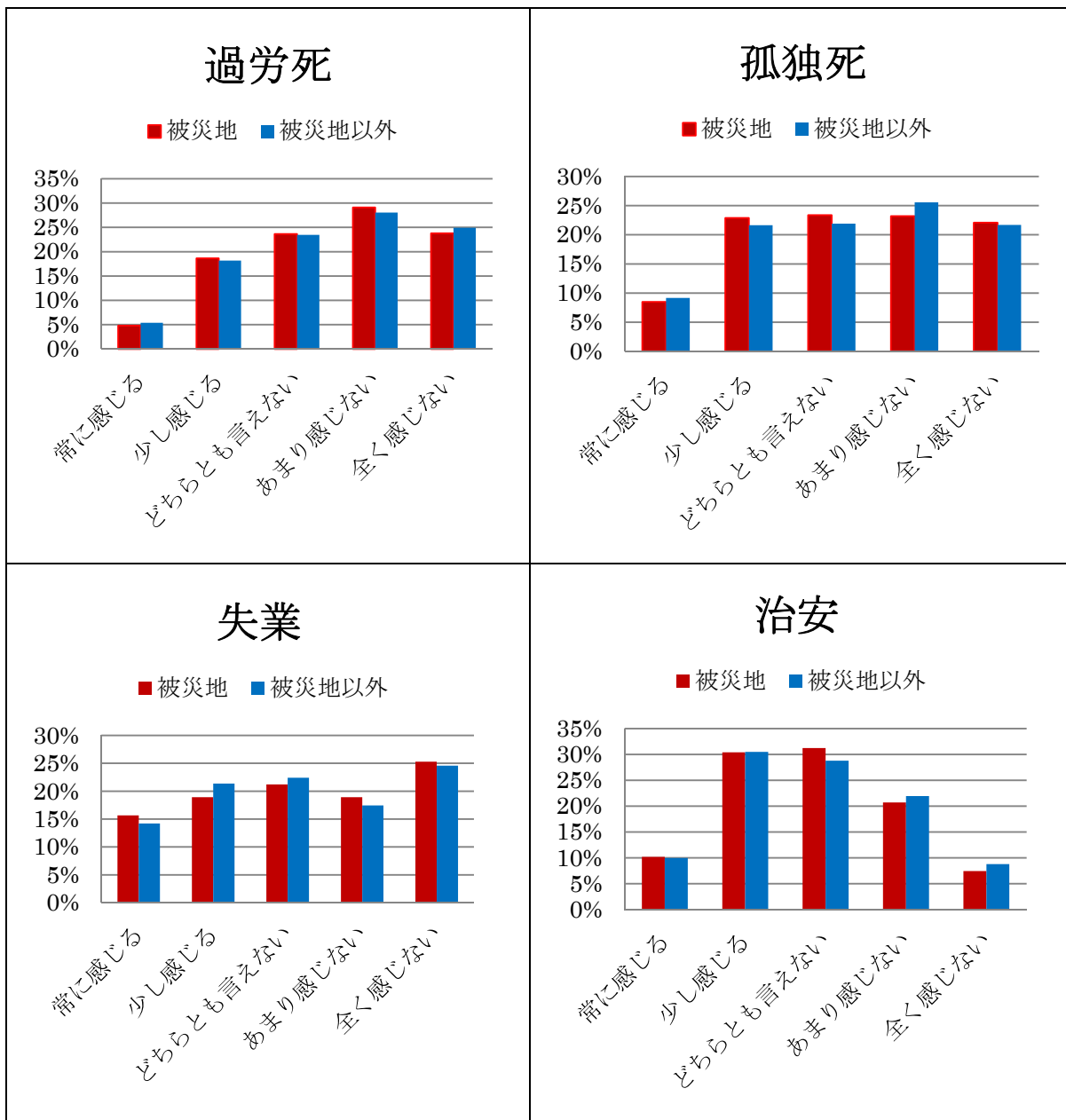


図 33-2 被災地と被災地以外における不安感の違い（放射能汚染、自然災害、食品安全、子どもの将来、老後の生活費）

